

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町大字神田4611-2		
自己評価作成日	令和4年8月24日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	令和4年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の草花に囲まれた静かなのんびりとした環境の中で、入居者さん9名と猫の「タマちゃん」が共に生活しており、笑い声の絶えない賑やかなホームです。ホームでは、自宅での生活と変わりなく日常生活を送ってもらえるよう、一人一人のペースを大切に、その人らしさを大切にした支援を心掛けています。

職員は、共同生活をする家族の一員という思いを持ちながら、一方的な関係にならないよう努めています。

長引くコロナウイルス感染症により、ボランティアさんや運営推進委員さんを中心に地域の方々の行事が行えない状況が続き、以前より交流する機会が少なくなっています。これまでの交流を絶やさないよう地域の方の協力により運営できていることを今一度認識しながら、地域との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

戸外に出かけたい利用者の希望に添うために、職員の勤務体制を工夫され、ドライブ(町内、油谷町、自宅周辺)や天気の良い日にはウッドデッキで花見をしながらの食事、畑の草取りをして、戸外に出かけられるように支援しておられます。事業所は自治会に加入しておられ、職員が年5回地域清掃作業に参加しておられます。年4回地域版の事業所だよりを発行され、地元自治会に回覧されて事業所からの情報を発信しておられます。地域の人からの差し入れがある他、近隣の散歩や買物時には地域の人と気軽に挨拶を交わしておられるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流しておられます。畑仕事や食事づくり、裁縫、編み物、花活け、グランドゴルフ、魚釣りゲーム、卓上ボーリング、ぬり絵、ジグソーパズル、魚さばき、誕生日会、ひな祭り、七夕会での法話、忘年会など、利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作っておられ、張り合いや喜びのあるその人らしい日々が過ごせるように支援しておられます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、その理念に沿ったケアを心がけている。実践する中で迷った時には、理念に立ち返り考えるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。毎朝のミーティング時に理念を唱和して職員間で共有している他、事業所だよりも掲載している。家族や地域の人との縁を大切に、その人らしさを支えるケアができています。それを常に話し合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域版のホーム便りを年に4回発行し、地域に回覧している。現在はコロナ禍のため地域の祭りには参加していないが、清掃作業等に職員が参加し交流に努めている。	事業所は自治会に加入し、年5回の地域の草刈や清掃作業に職員が参加している。年4回地域版の事業所だよりもを発行し、地元の二つの自治会に回覧してもらい、事業所から情報を発信している。月2回草取りボランティアや3か月毎に出張美容室が来訪している。地域の人から野菜や魚、地元のウニ組合から瓶詰ウニの差し入れがある。近隣の散歩や買物に出たときには地域の人と気軽に挨拶を交わしているなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため事業所主催の秋祭りや喫茶、ボランティアの受け入れ等は中止している。運営推進会議も書面で行っているため、GHの状況の詳細などを記載している。また、広報誌では生活の様子が分かるよう工夫し、理解を深めていただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員が自己評価に取り組み、内部研修でその意義を確認し理解するよう努めている。また、評価結果をふまえて改善に取り組んでいる。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、自己評価のための書類を配布して、全職員が記入したものをまとめている。職員は、評価を日常のケアの振り返りの機会と捉えている。昨年の自己評価結果から目標達成計画を作成し、運営推進会議での意見を出やすくするために、場所や人数の工夫や、平易な文言の資料について検討するなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況、ヒヤリハット、事故報告書の報告等を文書で対応させていただいているが、招集しての会議と違い意見等があまりにないため、工夫が必要と考えている。	運営推進会議は、拠点のデイサービスと合同で、年6回書面で開催している。利用者の状況、事故報告書及びヒヤリハット報告書、最近の行事と外出、ボランティア活動状況、年間行事予定、災害時の地域版連絡網などを議題として意見交換している。資料を送付した後に、電話で意見を聞いている。書面での開催のため、意見が出やすくなるために、読みやすい資料内容に心がけている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加だけでなく、随時、連絡・相談、情報交換をし、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、電話やメール、運営推進会議時や更新時に直接出向いて相談し助言を得ているなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話やメール、運営推進会議時に情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみを原則とし、身体拘束をしないケアを内部研修で学び、ケア会議で話し合っている。また、「身体拘束等の適正化のための指針」を制定し、職員全員で取り組んでいる。GH内、居室内を自由に行動できるよう転倒防止にも考慮しながら、ベッドやタンス、椅子やソファを配置している。	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づいて、年4回身体的拘束適正化検討委員会を開催する。職員は内部研修で学び身体拘束について正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間玄関は施錠せず、外出したい利用者には、ことばかけの工夫をしたり、職員が一緒に出かけて気分転換を図っている。スピーチロックについては、管理者が指導したり、職員どおしでも話し合っており、お互いに注意しあえる環境づくりに努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を持ち、職員同士がお互いに意識し合いながら、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について内部研修で学び、職員全員が理解に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際には、家族に理解・納得いただけるよう、十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りに努めており、家族会や面会時、また電話等で意見や要望を聴くようにしている。意見や要望等については、ケア会議等で話し合っている。苦情の受付や処理手続きは、速やかに行われるよう体制を整えている。	契約時に、相談や苦情の受付体制や処理手続きについて、利用者と家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時に家族から意見や要望を聞いている。、年4回、本人の写真等を添えて家族向けの事業所だより発行し、家族が意見や要望を言いやすいようにしている。本人の様子がよくわかり家族から好評の言葉を得ている。ケアについての要望はその都度適切に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議やミーティング時、日常業務の中でも職員の意見や提案は聞くようにしている。法人で年一回、自己申告書を記入する機会があるが、それが反映されていない所はある。	管理者は、月1回のケア会議や毎朝のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃の業務のなかでも聞いている。書きやすい「ケース記録」様式の改善や利用者が掛けやすい畳仕立てのベンチの設置、利用者の希望による柔軟な外出支援の取り組みなど、職員の意見や提案をサービスに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備が少しずつだが、改善しつつあるが、まだ整っているとはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月一回行い、なるべく全職員が参加できるようにしている。コロナ禍で外部研修への参加は、なるべく控えている。法人としてオンライン研修受講の環境は整っている。	外部研修は、職員に情報を伝え経験や段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回管理者や職員を講師として実施している。リスクマネジメント、プライバシー保護と人格の尊重、薬について、接遇マナー、身体拘束・高齢者虐待、口腔ケア、自己評価、食中毒をテーマとしており、毎回、緊急時の対応（救急搬送時、発熱、AEDの使用、止血、熱中症等）を併せて実施している。参加できなかった職員には資料を配布し全職員の共有を図っている。新人研修は、法人研修の後に日常業務のなかで管理者や先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や地域ケア連絡会議、町内の徘徊模擬訓練等に参加し、同業者と交流する機会を持つようにしている。また、他施設を視察させていただきサービスの質の向上に努めている。（これらのことが、コロナ禍でできていない。）		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来てもらったり、入居前面談を必ず行うようにしている。その時に、要望や思いを確認し、安心して生活を送れるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、GHに見学に来られた時や入居前面談等で、要望や不安なこと等しっかり確認して、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族とよく話し合い、必要に応じて他のサービスの利用や調整を行うよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、喜怒哀楽を共有し、食事作りや野菜作り等を教わりながら、お互いに助け合い支え合って生活をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、家族が家族会や行事への参加は難しいが、面会（窓越し）や電話で話していただいたり、密に連絡を取ることでこれまでの繋がりが希薄にならないように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人混みは避けながら、なじみの場所へのドライブや散歩の実施等、工夫している。 面会も事前連絡などのルールの中で、関係継続できるよう支援に努めている。	家族との窓越しの面会、年賀状での交流や電話の取次ぎを支援する他、地元商店での買い物や郵便物の投函、自宅付近へのドライブ、家族の協力を得ての通夜の参列など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係を把握し、居間での座席等の工夫をしている。また入居者同士がわからないことを教え合ったり、できない事を助け合ったりお互いが支え合える関係づくりを心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても御家族とお会いする機会があれば、近況を伺ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、アセスメントをしている。日々の関わりの中で本人の思いや希望・意向などをケース記録や業務日誌に記録し、把握するよう努めている。困難な場合は、職員で話し合い本人本位に検討している。	入居時に、家族や前ケアマネージャーからの情報を得て、「基本情報シート」を活用してアセスメントしている。日々の関わりのなかで、利用者が発した言葉や行動、表情を「ケース記録」と「業務日誌」に記録してミーティング時に話し合っており、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者が夜家族に電話を掛けたい様子が見られたため、翌日、本人の様子をみて家族に電話を繋げ本人が安堵するなど、職員は利用者の思いにさりげなく寄り添って支援している。困難な場合は職員間で話し合っており本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は家族から聞き取りをしたり、家族にセンター方式の様式に記入してもらっている。またGH入居前に利用していたサービス事業所にも問い合わせ、なるべくこれまでの生活環境と変わらない対応ができるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子をしっかりと観察し変化に気づくよう努めるとともに、ケース記録やバイタル、排泄チェック表などを用いて、心身の状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医の意見や意向を反映し、本人がより良く暮らせるよう職員全員で話し合い、本人の現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回計画の見直しをしている。	計画作成担当者を中心に、月1回カンファレンスを実施している。家族の意向を聞き主治医の意見を参考にして、全職員で話し合って介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3か月毎に計画の見直しをしている。利用者の状況の変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりのケース記録に日々の様子や気づき・発言などを記入し、ミーティング時やケア会議時などに情報の共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況によっては通院支援を行うなど、その時々生じるニーズに対して柔軟な支援ができるよう努めている。また、職員配置の変更をしたりと工夫をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域に出かけていくことや、地域のボランティアの方々との交流を持つことはできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医は決めている。かかりつけ医には往診通院時などに日頃の様子などを伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	以前からの医療機関をかかりつけ医としている場合は、月1回受診の支援をしている。事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は、家族には電話や面接時に伝えている。職員間では、「往診・通院・連絡記録帳」と「業務日誌」に記録して伝えている。緊急時には、かかりつけ医に連絡し指示を仰いで適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在だが、かかりつけ医にこまめに相談、報告をして指示を仰ぐようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との連絡を密に行い、入居者が安心して治療やサービスがスムーズに受けられるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時だけでなく、その時々で事業所の方針は伝えている。重度化した場合には家族や主治医等と話し合い、事業所でできることを十分に説明して方針を共有するよう努めている。	契約時に、重度化した場合に事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を聞きながら、主治医と相談して、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関りの中で気づきをヒヤリハット報告書に記録することで対策検討し、職員で事故防止に取り組みながら、小さな変化を見逃さないよう心掛けている。初期対応の確認や訓練は定期的に行い、少しずつだが実践力が身につけてきたように感じている。ヒヤリハットの重要性和事故防止の入口ということの再認識が必要と感じる。	事例が発生した場合には、その場の職員が、「ヒヤリハット報告書」または「事故報告書」に発生状況、発生時の対応、今後の対応策等を記入している。朝のミーティングで伝え、全職員に回覧している。月1回のケア会議で検討し再発防止につなげている。内部研修で、緊急時の対応として、食べ物や喉に詰まらせた時、救急搬送時、発熱、AEDの使用、止血、骨折、熱中症ムカデに刺された時等について毎月実施し、事故発生時に備えている。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害想定を変えながら、避難訓練を行い、災害レベルによる早期避難や避難方法など全職員が身につけるよう取り組んでいる。また、緊急連絡網等で地域との協力体制の強化を図っている。	年1回、消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した通報、消火、避難、誘導訓練を利用者も参加して実施している他、年1回、裏山の土砂崩れを想定した土砂災害避難誘導訓練を利用者も参加して実施し、災害時の職員体制や必要物品の確認をしている。災害時に備えて、水や食料、充電器等適切に備蓄をしている。火災や風水害、行方不明発生時の地域版連絡網を作成し、運営推進会議での了解を得ているなど、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を重ねていき、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう、その人の生活歴やその人に合った言葉かけ・対応を考えながら行っている。また、ケア会議でもプライバシーの確保ができていないか確認する機会を設けている。今後、言葉がけに対して、職員同士で指摘しやすい環境作りが必要と感じる。	職員は、内部研修で「プライバシー保護や人格の尊重について」「接遇・マナーについて」学び、ケア会議でも話し合っており、利用者一人ひとりに対してその人の生活歴を考えながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導し、職員間でも話し合っている。個人情報等の取り扱いに気をつけ、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を出せる雰囲気作りや自己決定できるように、職員は入居者さん一人ひとりに合わせて声かけ等工夫しながら対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを大切にしながら、その人その人がご自分のペースで自由に生活が送れるよう支援している。(例えば、食事時間、入浴、散歩等)		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪の手入れ、染髪等、本人の希望に沿ってその人らしい好みのおしゃれができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんと一緒に広告を見ながら、食べたい物を決めてもらったり、好みを聞いたり、その人その人ができること(野菜の皮むき、食事作り、食器洗い、食器・お盆拭き等)をしていただき、食事を楽しむ事ができるよう支援している。季節の料理を出すことを心掛けている。	週4日の昼食は、外部委託業者の配食を利用し、そのほかは、事業所で調理している。事業所の畑で収穫した野菜(キュウリ、オクラ、トマト、ナス、分葱など)や差し入れの魚やウニなど旬の食材を使って、利用者の好みを聞きながら献立に取り入れている。利用者は職員と一緒に、食材の皮むき、魚のさばき、味付け、盛付け、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗い、茶わん拭きなど、出来ることをしている。おやつ作り(ホットケーキ、おはぎ、いぎの葉団子)、行事食(おせち、花見弁当、恵方巻、ウニご飯、盆の握りずし、敬老の日のお膳など)、お好み焼きパーティ、餃子づくり、瓦そば作り、餅つき、バイキング形式での食事、ウッドデッキや中庭でのお茶や食事など、食事に変化を持たせ、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に記録し、1日に適切な量が摂取できるよう支援している。一人ひとりの状態や好みに合わせて、刻み食やトロミ剤を使用したり、提供する食器を変更したり工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを心がけているが、朝夕はできている。義歯の方は、就寝前に洗浄消毒をしている。口腔内の観察にも気をつけ、清潔保持に努めるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握や個々のしぐさ・言動のサインを見逃さず、声かけや誘導にてトイレでの排泄支援をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりの様子を見て、さりげない言葉かけと誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や麦、牛乳、ヨーグルト、乳酸菌飲料等を摂るようにしている。また水分摂取量にも注意し、スムーズな排便に繋がるように気を付けている。日々の生活の中で、散歩や軽い運動、体操ができる時間を持つように心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は毎日午後からだが、一人ひとりの体調を考慮し希望やタイミングに合わせて、個々に応じた柔軟な対応ができるよう心掛けている。また、入浴剤やゆず湯等で入浴が楽しめる支援をしている。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までとしているが、希望すればいつでも入浴できる。利用者の好みの湯加減にし、入浴剤を使って香りを楽しんだり、柚子湯にして季節を感じてゆったりと入浴を楽しんでいる。利用者の状況にあわせて、足浴、清拭、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、無理強いせず、言葉かけを工夫したり、時間をずらしたり、職員を替えたりして個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況やその方のリズムに合わせて、休息支援をしている。寝具の衛生面や空調管理にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で確認し、薬の目的や用法、用量について職員が把握している。追加薬があれば、業務日誌に綴って全員が共有できるようにしている。症状の変化等があればミーティング時に確認し、主治医に報告して指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、片付け、掃除、散歩、グラウンドゴルフ、ぬり絵、新聞を読む、歌、畑仕事、ドライブ等気分転換できるよう、また役割が持てるよう、その人の生活歴や好みに合わせた支援に努めている。	畑を耕す、植え付け、草取り、水やり、収穫、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の収納、モップ掛け、拭き掃除、掃き掃除、掃除機を使う、裁縫(のれん、雑巾、三角巾)、編み物、ウエス作り、花活け、ゴミ捨て、新聞をたたむ、歌を歌う、風船バレー、ゴボウ体操、グラウンドゴルフ、魚釣りゲーム、卓上ボーリング大会、切り絵、貼り絵、ぬり絵、ジグソーパズル、かるた、テレビやDVD視聴、雑誌や新聞広告を見る、魚さばき、食事づくり、誕生日会、ひな祭り、七夕会での法話、忘年会など、利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作り、張り合いや喜びのあるその人らしい日々が過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、人混みへの外出を控えたりと以前のような外出機会は減っている。散歩や町内の店舗での買い物やドライブ等で希望に沿うよう対応している。	周辺の散歩や花見(アジサイ、蓮の花)、梨・ブドウ狩りやドライブ(町内、油谷町)に出かけている他、家族の協力を得ての通夜への参列、天気の良い日にはウッドデッキで花見をしながらの食事や畑の草取りをして外気浴をしている。利用者の希望にできるだけいつでも対応できるよう職員間で申し合わせて、勤務体制を変更するなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GHでの預り金の中から家族に了解を得て、希望に応じて買い物が自由にできるよう支援しているが、現在は買い物に行ける場所が限られている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用できるようにしているが、自らが電話をされることがないので、声掛け等で促し電話でのやり取りができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のある飾りつけをし、四季を感じることができるようになっている。よしずの使用や空調管理で室温や換気に気を付けながら居心地良く過ごせるよう工夫している。また、トイレの場所など(矢印を用いて)分かりやすいようにし、ウッドデッキでは、日向ぼっこができるようベンチを置くなどの工夫をしている。	リビングの大きな窓から見える裏山の木々から、四季の移ろいを感じられる。玄関や室内に活けた花や観葉植物が季節を感じさせている。ウッドデッキに2脚のベンチを置き、外気浴や食事、ティータイムを利用者と職員が一緒に楽しむ場所となっている。廊下や室内の壁には行事写真や利用者の作品を飾っている。玄関に、ソファや椅子、作り付けの畳椅子を置き、路用者が思い思いに過ごすことができるようにしている。温度、湿度、換気に留意し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を死角部分に配置し、独りになれたり、気の合う入居者同士で他の方を気にせずに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、仏壇等を持ち込んでいただいたり、写真やぬり絵を飾るなどして、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるようにしている。居室内を本人の思いで動けるよう一人ひとりの身体状況に合わせ、居室内の配置を工夫している。	机や椅子、ソファ、テレビ、仏壇、衣装ケース、時計、タンス、等馴染みのものや好みのものを持ち込み、壁に自作のぬり絵作品やカレンダー家族写真を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、安全にできるだけ自立した生活ができるよう個々の動線にあった配置をしている。壁や戸に、場所や矢印を書いて分かりやすくし、部屋の入口には名前や顔写真を貼ったり、自作の暖簾をかけるなどの工夫をして、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		